

## 平成 28 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉西高等学校

学校長 稲毛 靖

評価日	平成 29 年 3 月 21 日 (火)	
評価・提言	学校の所見・改善策等	
<b>1. 今年度の自己評価について</b> <b>(1) 重点目標の達成状況</b> ○自己評価表（年度末）について <b>①規範意識・良き生活習慣の確立</b> ・「さわやかな挨拶」は大切。評価内容はこれで良い。 ・中間評価と同じように小項目毎に評価すると良い。 <b>②キャリア教育の充実</b> ・チャレンジノートとはどんなものか？  ・企業では「キャリアシート」があり、自分の取組を残し、キャリアアップに活かす仕組みがある。記録だけでなく、自分の成長・長所の記録など、進学や就職につながるものにしてはいかがか。  ・図書の本は充実しているか。チャレンジグループ活動のためにも充実させて欲しい。  ・フィールドワークイン関西研修の訪問先について  ・ボランティア活動の参加状況について  <b>③主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上</b> ・パイオニアホームの生徒で、パイオニアホームに残りたいという生徒は増えているか。  ・進路関係では、オープンキャンパスの取組やOB・OGの講話などで良い評価なのでB→Aに変更するとよい。 ・パイオニアホームの取組は、評価がCとなっているが、岡山操山高校との交流や英字新聞を活用した取組等良く取組んでいるので、Bの評価に変更した方がよい。 <b>④情報収集、情報発信の充実</b>	→今年度の学校評価中間自己評価表と学校評価年度末自己評価表を提示  →生徒会執行部を中心とした生徒同士の挨拶運動も行い、ステージが上がる毎に良くなっている。 →4点固定については生活の軌跡等を活用して指導。良くなった。  →チャレンジグループ活動は本校の教育活動の柱の1である。生徒のチャレンジグループ活動の取組を記録するためのノートで、今年度から始めた。 →3年間の取組を1つのファイルにまとめて、進学・就職に活かす計画である。 ・キャリアシートの様式やジョブカード等を参考にして、今後工夫していきたい。 ・本校生は、就職・進学の時に自分のチャレンジグループ活動の成果を活用する事が多い。自己理解も含め記入させたい。 →チャレンジグループ活動発表などで利用者は増えている。本校にない書籍は他の図書館を利用している。チャレンジグループ活動コーナーを作るようにしている。 →来年度は、パイオニアホームの研修を1日増やして、探究活動の盛んな高校との交流や企業訪問を考えている。訪問先は早期に決めたい。 →今年度後半は中部地震で催し物が中止になり、募集が減少し、参加者数が減った。 ・来年度はS1生全員にボランティア体験を実践して、視野を広げてもらう予定。	
	→S2からS3では移動はあまりないが、S1からS2は10名程度ある。中学3年生には、まだパイオニアホームの取組が十分に伝わっていないので伝える工夫を行う必要がある。 →他の委員の賛成。Aに変更 ・大学オープンキャンパスや卒業生の講話は、生徒の評価も良い。継続したい。 →他の委員の賛成。Bに変更 ・生徒会活動などではやはりパイオニアホームの生徒が率先して取組んでおり、生徒会役員もCホームに多い。	

- ・ホームページの閲覧回数は増えて良い。
- ・ホームページの運営側は訪問者のログを見るとどんなところに興味を持っているか等も分かるので、その部分の更新を増やすなど対策もできる。
- ・ミッタシステムは連絡するのに良いシステムである。S3になると登録者が少なくなっている。年度が替わる前に更新案内情報を流すなどして、加入者を増やすと良い。
- ・紙で、システムの更新について知らせても生徒から保護者に渡らない事もある。電子情報で更新依頼をするとよいのではないか。

## (2) 説明・公表について

- ・ホームページの更新は大切である。
- ・この季刊誌は、倉西高の取組がよく分かる。
- ・季刊誌をPDFにしてホームページに掲載すると、カラーで見えるので更に良い。

## 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について

### ○今年度の各種事業の取組状況報告

- ・チャレンジグループ活動（探究活動）と学びの深化、人間力の向上が今年度の3つの柱。
- ・西高祭では、生徒が生き生き活動していた。

### ・学びの深化について

- ・部活動で良い成績を残してくれて嬉しい。

- ・キャリア教育充実の「ふるさと再発見」にある「地域情報紙出版の拠点に学ぶ」とはどのような取組だったのか。

- ・主権者教育講演会とあるが、どのような取組だったのか。また、生徒の意識は高くなっているか。

## 3. 取組改善のための提言

- ・チャレンジグループ活動の活性化のためにも図書の実践をお願いしたい。

→今年度だけで閲覧者が20万件（開設から全体で40万件）となり、閲覧者が増えている。しかし、更新頻度には差があるので、なるべくどの部分も更新されるように、多くの職員に働きかける。

→今年度は、中部地震や大雪等による休校連絡が、ミッタシステム加入者には素早くできた。新入生保護者にも良さをしっかり伝えて加入を促す。

- ・入学時に登録すれば3年間使用できるとステージが上がると登録者が減少する事を防ぐ事ができる。毎年更新しなくてもよい方法がないか、現在検討中である。

→今まで以上に、タイミングの良いホームページ更新に努める。担当者だけでなくどの部活動でも適時更新できるように、年度当初から更新方法を伝え実践する。

- ・季刊誌は、学校内での配布以外の新たな設置はできなかった。

→校長がパワーポイントのスライド画像を用いて説明

→自分たちが楽しむだけでなく、来場者の方に喜んでもらえるように着ぐるみやパレードなど生徒達が工夫して取組んだ。

- ・大学教授を招聘し、アクティブラーニング型授業の実践を始めた。来年度も継続して、教員の授業力の向上を図りたい。

→今年度は、弓道・自転車競技のインターハイが県内で開催され、本校生徒も良く頑張った。国体や選抜大会、アジア大会でも良い成績を残してくれた。生徒が本当に頑張った。

→今年は、西部の「本の学校」今井書店を訪問し、どんな思いで書籍を作ったり販売しているか直接質問する事で、地域の魅力を再発見した取組である。

→鳥取県選挙管理委員会の職員による講演会を実施した。選挙権が満18歳以上に変更されたことを踏まえ、主権者教育を計画的に実施する事が必要である。

→チャレンジグループ活動報告書にも各グループ推薦図書を掲載しており、年度毎に更新している。図書館は、チャレンジグループ活動の場所として重要な働きをしている。